

1. 2017年度報告

大学の中核を担い得る附属校生の輩出とともに、SSHやSGHで築いてきたアジアの交流校のハブもしくはグローバル化の拠点となることを目標に努力を続けている。

○早稲田大学のSGUを牽引できる人材、グローバルリーダーとして世界に貢献する人材の育成

- ・SGHのマイクロプロジェクトの達成に向けて、インドネシア・シンガポール・中国・韓国・ネパール・沖縄等でフィールドワークを行い成果を上げた。
- ・1年間留学しても3か年で高校を卒業できる留学制度を本年度から始めた。その一期生として2年女子3名が留学した。
- ・国際部の支援を得て、「海外協定校」の一つに江蘇省蘇州中学を加えることができた。また、アメリカ・コネチカット州にあるKent Schoolへの留学の道が拓けた。

○高大一貫教育の充実

- ・「総合的学習の時間」における「課題探究」としてカリキュラムの中に設定した「卒業論文」の組織的指導として、GECライティングセンターの支援を受けて「問いの立て方」「パラグラフライティングの技術」「著作権と引用」の三点について学んだ。また、環境エネルギー研究科等の教員から支援を受け、自然科学論文を含む「卒業論文」の完成度を高めることができた。
- ・学業成績だけでなく、思考力や判断力、意欲や主体性などを多面的に評価することによって学部推薦候補者を決定するG選抜制度を2018年度より開始するための準備を行った。この制度によって学部に進学した生徒の追跡調査を行う方法の検討に入った。高校3年間の生活を記録する「ポートフォリオ」の導入に向けて検討を始めたが、まだその完成には至っていない。

○教科横断型授業、地域の環境を活かした教育の展開

- ・教科横断型授業で、文理融合の授業でもある「大久保山学」を開始した。その中の二講座は「東洋経済 ONLINE 2017年8月16日版」に「早稲田直系の付属校は『山』で秀才を育てる」の見出しで取り上げられた。

○女子生徒寮を核とする全国・世界型募集形態の拡充と男女共同参画に向けた取り組みの強化

- ・本学院の将来構想の一つである「全国・世界型の高校」をさらに推進するために女子生徒寮が竣工し、男子寮と合わせて「寮」を有する大学の附属校としての存在基盤を確立することができた。
- ・男女共同参画の視点では、2018年度入学者のうち女子比率が45%強となった。

○第22回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会（附属校サミット）の開催

- ・大学の全面的な協力を得て、全国私学教員の学びの場を提供できた。また研究授業を提供することで自らの教育を見直すことができた。二日間で43校、152名の教員が参加した。

2. 2018年度計画

継承と発展を合い言葉にこれまでの教育成果を踏まえつつ更なる革新を遂げ、大学の中核を担い得る附属校生を輩出するとともに、「全国・世界型」の高校として優位な地位を築くべく特色ある教育を推進する。

○早稲田大学のSGUを牽引できる人材、グローバルリーダーとして世界に貢献する人材の育成

- ・指定4年目であるSGHプログラムにおいて、本年11月に高校生国際シンポジウム「WaISEC」を開催し、国内外から優秀な高校生を迎え、研究発表、ディスカッション、共同研究を通じて深い学びを経験させるとともに、国を越えた友好を深める。
- ・二つの生徒寮を利用して海外からの留学生を受け入れ、異文化交流を図る。また、1年間の海外留学制度を推進する。
- ・ポストSGHを見据え、エンパワメントプログラム・海外研修プログラム（いずれも有料）を継続し、英語力の向上と地球規模で活躍できる人材の育成に努める。

○さらなる高大一貫教育の充実

- ・昨年度から実施している「卒業論文」作成のための組織的支援を推進する。GECライティングセンターによる論文作成支援を2年次秋から行い拡大する。
- ・各学部との連携を図り、大学教育を支える基礎的な学力、大学で大きく伸びる学力について分析し、全ての教科においてそれらを伸ばす方策を検討し実践する。
- ・学業成績だけでなく、生徒の力を多面的に評価し、学部進学候補者を決定するG選抜を実施する。この効果を検証するため、学部進学後の追跡調査の方途を探る。
- ・各学部の「英語学位プログラム」に積極的にチャレンジできる生徒の育成するため、まずは、英語上級者に英語力を伸長すべく授業を展開する。
- ・スポーツ科学部及び競技スポーツセンターと連携し、本学院で3年目となる「競技スポーツガイダンス」をさらに充実させる。高いレベルの文武両道の達成を目指し、褒賞制度等も検討する。

○教科横断型授業、地域の環境を活かした教育の展開

- ・本学院独自の教科横断型、文理融合型の授業である「大久保山学」をさらに推進する。現行8コースの選択であるが、それをさらに拡大すべく教科に呼び掛ける。

○地域への貢献

- ・SSH指定時代から続く、市内小学校との共同研究、出前授業をさらに充実させる。また、SGHの「国際共生とボランティア」のプロジェクトの一つとして市内小学校における学業支援、出前授業を実施する。
- ・各公認団体（部活動）の市内でのボランティア活動をさらに推進する。

○キャリア教育の推進

- ・2018年3月に告示された新学習指導要領で強調されるキャリア教育を推進する意味からキャリア・デザイン講座を同窓会、稲門会埼玉県支部の協力を得て実施する。